

## 人材育成事業の実施について

### ワークショップの内容とねらい

災害廃棄物処理に関する自治体職員の人材育成を推進するため、青森県・宮城県・秋田県・山形県において2回ずつ、人材育成に係るワークショップを開催するもの。1回の所要時間は午後半日を想定。

災害の発災直後の3日間で、自治体の廃棄物対策部署として初動期に取るべき対応を、グループ内で議論を深めながら進めることを疑似体験することで、適切な行動を取る判断力を養う、討論型の図上演習方式を採る。

架空の自治体（人口5万人規模）の域内で水害が起こり、災害廃棄物が発生しているという想定で次々に状況を付与し、それへの対処をグループワークとして行う。

参加する自治体職員には、これまでの東北地方ブロックの成果物である「**災害廃棄物処理行政事務の手引き**」（以下、「手引き」という）の内容をよく理解していれば、対応の方向性が見い出せるような構成としている。

### 開催概要

下記の概要で、計8回実施した。参加者人数は計169人。

日程	県	場所	参加者人数
2018/11/15	青森県	青森市内（新町キューブ）	17人
2018/11/16	青森県	八戸市内（青森県八戸合同庁舎）	16人
2018/12/13	宮城県	仙台市内（宮城県庁舎）	21人
2019/01/15	宮城県	仙台市内（宮城県庁舎）	21人
2019/01/17	秋田県	秋田市内（秋田県庁舎）	24人
2019/01/24	秋田県	秋田市内（秋田県庁舎）	16人
2019/02/15	山形県	新庄市内（最上総合支庁舎）	26人
2019/02/22	山形県	山形市内（山形県庁舎）	28人

## 標準的な実施方法

①

事務局より、ワークショップの心がまえや、今回の図上演習の設定、および「手引き」の中で今回の図上演習で使う箇所を説明し、そのあとグループごとに自己紹介と役割分担決めを行う。

②

6人程度のグループに分かれ、時々刻々と紙で付与される新たな状況への対応を、地図を囲んで議論する。そうして対応方針を考えたいうえで、担当者を決めて計算などの実作業に入る。ファシリテーター（有識者や、県職員、日本環境衛生センター職員などが適宜務める）が各グループに一人ずつ着き、対応のようすを見守る。

③

3日間（実際には2時間）の対応が終わったのち、市長が出席する災害対策本部の場で対応状況を3分間にまとめて報告するという状況を設定し、各グループごとに発表を行う。それに対して、市長役を務める有識者のファシリテーターから質問が出される。

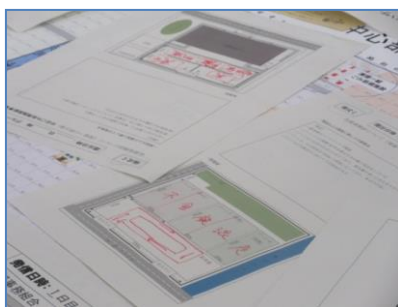
④

最後に、他グループの成果物の巡回閲覧や全体ふりかえり、有識者からの講評、東北地方環境事務所からのコメントなどを行い、閉会とする。

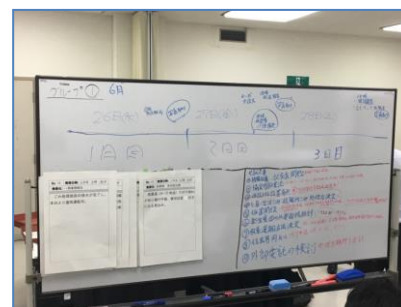
## ワークショップのようす（写真紹介）



地図に情報を書き込む



仮置場開設などの課題に対応



ホワイトボードで状況整理

各県での実施風景

青森県

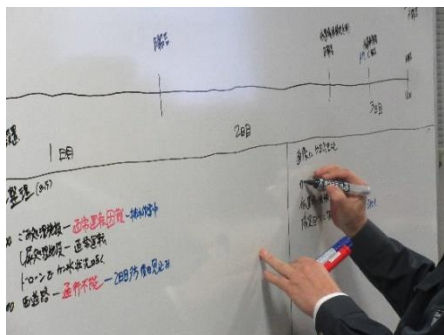


事前演習



情報の共有

宮城県



情報の整理



発生量の推計

秋田県



様式の提出



グループでの振り返り

山形県



市長役への報告



市長役からの指摘

## 参加者の反応（アンケート）

アンケート結果については現在集計中であるが、サンプルとして1会場の市町村職員のアンケート結果を見てみると、演習全般について「良かった」とする回答が87%、「普通」が13%、「改善してほしい」がゼロとなっており、おおむね評価する結果となっていることが読み取れる。

演習内容の項目ややることの量的な配分についても、「ちょうど良かった」が87%、「項目・やることを増やしてほしい」が13%、「減らしてほしい」がゼロとなっており、作業量的にも適切なものと受け止められていることがうかがえる。

感想の自由記述内容を、以下に抜粋して列挙する。

- ・実践を想定しての作業を行うのがよかった。演習でもかなりバタバタしていたので実際の災害は比較することができないくらい大変なのだろうと思った。
- ・発災直後3日間の災害廃棄物処理対応について、ファシリテーターからのアドバイスや市町村の担当のいろんな意見を聞くことが出来て、廃棄物処理対応の良い図上演習でした。
- ・当町は、総務課で防災を担当しており、災害時には総務課等との連携が必要なことから、関係部署が合同で演習すると情報共有が出来ると思いました。
- ・演習をやり易いように図面が区画に分かれていたのは、取り組みやすかったです。実際には家屋のみならず、付属屋・自家用車・土砂流入など多岐にわたる災害廃棄物が発生するため、初心者、中級者、上級者など熟知度を変えたワークショップがあれば、スキルアップができるのではないのでしょうか。
- ・演習終了後のファシリテーターとの意見交換が大変有益であった。災害廃棄物処理担当者の視点からワークショップで見落としした点の気づきや意見交換での助言が今後の災害廃棄物対策や研修を考える上で学ぶ点が多かった。
- ・今回の演習は、災害発生直後にやるべきことを疑似体験する内容であったが、短い時間の中でたくさんの情報が入り慌しさが実感でき、日頃から備えておくことの重要さも実感できたので良かった。
- ・初動対応の大変さを体験することで、改めて災害廃棄物処理計画策定の重要性や平時における準備の大切さを再確認でき、有意義な研修会になったと思う。
- ・発災から会議での報告まで一連の流れで体験できたのが良かったです。また、最後に振り返りの時間があったのも良かったです。演習中は指示をこなすことに必死でしたが、振り返りがあって足りなかった視点などにも気づくことができました。
- ・各グループにファシリテーターを置いて演習を支援してくれたので、廃棄物処理の未経験者が演習を進めるうえで助かりました。

以上